

教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 令和元年5月22日(水) 午後1時30分～午後2時40分
- 2 場 所 伊東市役所高層棟5階教育長室
- 3 出席者 1番 高橋 雄幸君 2番 井上 靖史君
 3番 山本 香織君 4番 沼田 芳美君
 5番 村上 恵宏君
- 4 参 与 教育部長 富士 一成 次長兼教育総務課長 岸 弘美
 教育指導課長 操上 俊樹 幼児教育課長 稲葉 祐人
 生涯学習課長 杉山 宏生
- 5 事務局 教育総務課課長補佐 太田 靖久 主事 杉山 詩乃
- 6 会議の経過

教育長：ただ今から伊東市教育委員会5月定例会を開会する。議事に先立ち事務局から報告を行う。

(事務局から出欠報告及び資料確認)

教育長：それでは議事に入る。始めに3月定例会及び4月定例会会議録の確認を行う。修正点等はあるか。

(意見なし)

教育長：会議録を原案どおり承認してよろしいか。

(委員全員から賛成の声)

教育長：承認が得られたので、3月定例会及び4月定例会会議録は原案どおり決定する。会議録の署名は井上委員にお願いする。

教育長：それでは議事に入る。教育長報告を行う。5月定例会教育長報告事項について、主な内容のみ説明を行う。

4月17日 小杉新聞堂「KoDoMo新聞」2,000部寄贈

- 1 8 日 教頭会、県教委特別支援課長来庁
- 1 9 日 玖須美区古文書寄贈、図書館訪問
- 2 1 日 伊東市少年少女合唱団第 4 2 回発表会
- 2 2 日 市女性連盟総会、人権擁護委員任命式
- 2 3 日 県教育委員会訪問
- 2 4 日 市教育機関職員試験委員会、給食センター訪問(副市長・理事)
- 2 5 日 土地利用対策委員会、男女共同参画プラン推進委員会、
政策会議、県教委高校教育課来庁、結核対策委員会
- 2 6 日 田方地区教科用図書採択連絡協議会、
伊東市 PTA 連絡協議会総会、市功労者及び元議員との懇談会
- 5 月 2 日 藤の広場フェスタ
- 5 日 第 1 3 回伊東商業・伊東高校野球定期戦
- 7 日 静東教育事務所地域支援課来庁
- 8 日 市幼稚園教育研修会総会、市教育機関職員試験委員会、
教育委員会内ランチミーティング
- 9 日 手をつなぐ育成会総会
- 1 0 日 政策会議、調整会議、幼稚園 PTA 連絡会総会、
教育委員会内ランチミーティング
- 1 1 日 ふるさと教室開校式
- 1 3 日 幼稚園長会、就学援助認定委員会
- 1 4 日 神奈川県大和市文化創造拠点シリウス（図書館）見学
- 1 5 日 静岡県都市教育長協議会総会
- 1 6 日 校長会・教育委員との懇談会、県教委特別支援教育課来庁
- 1 7 日 合同研修会（主幹教諭・教務主任・教科等指導員・研究員・

アドバイザー)、スポーツ少年団指導者協議会総会、
ジュニアレスリングクラブ市長訪問、
伊東市育英奨学選考委員会

18日 伊東祐親まつり 薪能

19日 伊東祐親まつり 式典

20日 東部地区補導センター協議会、幼稚園教育に関するヒアリング

22日 教育委員会定例会、総合教育会議

以上で報告を終わるが、何か意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

教育長：それでは、各委員からの報告をお願いします。

(報告なし)

教育長：大和市文化創造拠点シリウスの視察について、意見や感想をお願いします。

委員：駅の交差する場所にあり立地がとても良い。敷地の確保のやり方や困難さを聞き忘れてしまった。利用者が団塊世代や子ども連れ等幅広く、1日楽しめる場所となっていた。伊東市の図書館・文化ホールについてもアクセスが良く使いやすい立地が良いと思った。災害の面では、伊東市と環境が違い自然災害の危険性が低いようだった。立地について参考とできる部分は少なかったが、施設はとても素晴らしかった。

委員：施設内に関して、子ども向けのスペースと大人向けのスペースを階で分けていたのがとても良いと思った。小さな子どもが行くスペースには遊ぶスペースも設けられていた。椅子に座れない小さな子どもが床に直に座れるカーペット敷きのスペースがあったので、ぜひ伊東市の図書館にも取り入れたい。スペースが区切られているので、小さな子ども連れの方たちもあまり声を気にし

なくて良いため、気兼ねなく行けるのではないかと感じた。立地は駅から近く、わざわざ図書館に行くということではなく、学校帰りや買い物ついでに立ち寄れる環境があった。また、子どもたちが勉強できるスペースが充実していた。スペースの作り方は参考にできたら良いかと思う。

委員：環境が違うため、立地的にはあまり参考にならないかと思う。施設内については、大和市のようにできたら良いが、人口規模の差が大きくあるのではなかなか難しいかと思うが、機能的には備わったものにできたら良い。カフェ等ゆったりできるスペースや子ども連れのスペースを作ることは大事だと感じた。こういう図書館があるから伊東市に住みたいと思えるものができたら良い。

教育長：このような施設があるかないかで教育の格差も出てきてしまうのではないか。人口差があり財政状況も違うので、民間の力を借りることも含め知恵を出し合って考えていきたい。大和市のような施設ができると子どもたちの教養も含め教育の質は高まっていくのではないか。素晴らしい施設を視察し、とても勉強になった。

教育長：それでは、議題に入る。報告事項、教報第3号「令和元年度実施 伊東市教育機関職員採用試験について」を議題とする。

(岸次長兼教育総務課長から資料に沿って説明)

教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：昨年度から年齢についての受験資格を35歳から40歳まで上げたが、上げた年齢での申込みはあったのか。

岸次長兼教育総務課長：昨年度問い合わせはあったが、実際の申込みは無かった。

委員：昨年度は辞退者がいたが、辞退者を想定した予定人員にできないか。

岸次長兼教育総務課長：ここ数年、幼稚園教諭だけでなく市長部局の一般職種

でも一定数の辞退者が出ている。試験の公平性から伊東市全体で補欠制度は採用しないこととなっている。職種によっては、予定人員が集まらず何度も採用試験を行っている場合もある。専門職不足は課題である。

委員：幼稚園の勤務時間について、早番や遅番があると思うが、何時から何時までか。

岸次長兼教育総務課長：幼稚園の勤務時間は、8時30分から17時15分までの通常の勤務時間である。委員のご指摘の勤務の仕方は、保育園のシフト勤務かと思われる。

富士教育部長：保育園では、基本的に、7時30分から16時15分、8時30分から17時15分、9時30分から18時15分の3つの区分で月ごとにシフトを組んでいる。園によっては、勤務体制に合わせ時間を変えている場合もある。

委員：保育士も人材不足だと思うが、子どもがいる人だと保育園に預ける時間が合わず、早番や遅番に対応できないため、資格を持っていても申し込まない人もいるのではないか。メインの固定した時間で勤務する職員の採用もあっても良いのではないか。

稲葉幼児教育課長：シフトについては、体調や家庭の事情を配慮し、基本的には園長の裁量で決めてもらっている。臨時職員では、働きやすい時間で採用している場合もある。今後も個々の事情を配慮した時間で考えていきたい。

教育長：以上で報告事項を終了する。

教育長：次に、その他に入る。「平成30年度伊東市教育委員会 自己点検・評価報告書作成スケジュールについて」を議題とする。

(事務局から資料に沿って説明)

教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

教育長：次に、その他「各課報告について」を議題とする。

岸次長兼教育総務課長：教育総務課から2点報告を行う。1点目は、就学援助認定委員会の第2回の認定状況について報告する。前年度の1月に既に325人の審査を終えている。第2回目として42人の審査を行い、今回の認定にて全小中学校に占める認定率が10.3%となる。例年この時期だと全体に占める割合は8%程度だが、制度の周知が図られたことで援助を必要とするご家庭が申請したことにより、約1割の方が申込みをされた。

2点目は、育英奨学選考委員会の状況について報告する。5月17日(金)に選考委員会を開催し、22人の応募者に対して19人の奨学生を決定した。今後通知を行い、奨学金の計画的な貸与を行っていきたい。

操上教育指導課長：教育指導課から生徒指導について報告する。問題行動については、小学生の方が多く、高学年の発生率が高い。この子たちを中学校に入るまでにどう成長させていけるかは一つの課題である。小中学校共に報告件数は、過去5年間で最も少ない。問題行動の解消に向け、子どもの自己肯定感や自己有用感を持たせていきたい。また、保護者との信頼関係を損なってしまわないよう気を付けていきたい。いじめについては、重大なものは無い。いじめの認知については、新年度も始まり担当が変わったりもするので、再度学校の体制や認識を確認していきたい。いじめを認知することの目的は、いじめの芽が育つ前に適切な指導を行うことであり、いじめの芽が育ちにくい環境を作ることである。未然防止が一番大切ではないかと思う。不登校については、出現率も高く、ここ数年喫緊の課題となっている。新年度を向かえ、適応ができない子や人間関係で上手くスタートできなかった子について、早期に発見して対応していきたい。伊東の学校の中で大きな課題であるため、1人でも不登校の

子が減るように、あるいは生まないようにという努力は全校をあげて取り組んでいきたい。

昨日の大雨対応について報告する。幼稚園・小学校・中学校全て休校・休園対応とした。流れとしては、20日（月）の夕方の時点で、校長会長と市教育委員会で大雨時の対応の確認を行った。当日は朝6時の段階で警報が発令されており、自宅待機とした。取り決めとして、自宅待機とした場合、10時半までにその後の対応を決定して通知することとなっている。8時に校長会から全校休校の意向を受け、市教育委員会で協議を行い休校と決定した。家庭への影響等も考慮し、10時半まで待たずに早めに休校を決めた。休校としたことによる大きな影響は報告されていない。

稲葉幼児教育課長：幼児教育課から2点報告を行う。1点目は、ゴールデンウィーク期間中における保育園利用人数について報告する。

（**稲葉幼児教育課長**から資料に沿って説明）

2点目は、幼児教育無償化の実施について報告する。関連の法律が成立し、10月から幼児教育の無償化が始まることとなった。幼稚園・保育園では、3歳から5歳までの幼稚園・保育所の保育料を無償化、0歳から2歳までは住民税非課税世帯に限り無償化となる。幼稚園の預かり保育は、保育の必要性が認められる場合、月額11,300円まで無償化となる。認可外保育施設、企業主導型保育施設、一時預かり、病児保育、ファミサポ等は、3歳から5歳までは保育の必要性が認められる場合、月額37,000円まで無償化、0歳から2歳までは保育の必要性が認められ、住民税非課税世帯の場合、月額42,000円まで無償化となる。来月頃から各施設に説明に回り、周知を図る予定である。

杉山生涯学習課長：生涯学習課から令和元年度の事業の進捗状況について報告

を行う。小学生ふるさと教室は、5月11日から開講し、受講者は40人となった。合わせて夢チャレンジクラブを実施しており、中学生15人、高校生2人が参加することとなり、過去最多となった。楽しく学ぶ子育て講座は、5月16日から開講し、受講者は今までの平均より少し多く15人となった。市民大学は、前期は5月10日に開校し、4講座で受講者は71人である。いでゆ大学は5月23日に開校し、1回生は、定員30人に対して33人の申込があり抽選で30人を決定した。第20回市町対抗駅伝については、11月30日に開催されるので、広報等を利用し選手募集を行う。昨年度よりも良い成績が取れるよう努力して参る。

教育長：ただいまの報告について、意見・質問はあるか。

委員：育英奨学金について、選考基準はどういったものか。

岸次長兼教育総務課長：心身健全である、成績優良である、学資の支弁が困難であることの3つの基準で選考している。指標となる数値については、他の日本学生機構等の奨学金を参考としてある程度の基準を設け、成績の評定平均や欠席日数など総合的に鑑みて選考を行っている。

委員：学力は通知表などを提出してもらって判断するのか。

岸次長兼教育総務課長：成績に関する書類については、大学1年生の場合は高校3年時の評定や学校長からの推薦書、欠席日数が分かる書類等を出してもらう。学資の支弁が困難であることの書類については、世帯全部の収入の状況が分かる書類等を出してもらう。統一的な書類で、厳正に選考を行っている。

委員：大雨時の休校対応について、給食はどうなったのか。

岸次長兼教育総務課長：早めに休校を決めたことにより、食材のロスはほとんど無かったが、パンだけは前日に焼くので廃棄となってしまった。

委員：大雨等の対応は、各学校での判断なのか。

操上教育指導課長：登校時間は基本的に中学校区で判断する。ただ、休校については全市一斉で行うようにしている。

委員：教育委員会は特に関わっていないのか。

操上教育指導課長：基本的には、校長会の決定を受け校長会長から教育委員会に連絡が来て承認する。休校については、教育委員会でも協議を行う。

教育長：子どもたちの安心安全が第一なので、その辺りを理解して判断する必要がある。

委員：保育園は通常通り保育を行ったのか。

稲葉幼児教育課長：保護者の仕事等もあるので、保育園は原則休校としないこととなっている。そのため、登園・降園途中は注意してもらうよう各園から保護者へ通知をしている。

教育長：夢チャレンジクラブについて、リーダーとして本当に一生懸命やってくれている。この活動を通して小さい子を労わったり子どもたちで協力したりする心が育つと良いと思う。

教育長：今後の日程について確認する。

6月の定例会については、6月26日（水）午後2時30分から

7月の定例会については、7月10日（水）午後2時30分からを予定している。

教育長：以上で伊東市教育委員会5月定例会を終了する。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

教育長 高橋 雄幸

委員 井上 靖史

書記 杉山 詩乃